

担当学芸員が語る 向井潤吉展の見どころ

～学芸員：河内えり子さんに聞く～

―向井潤吉(1901～1995)は古民家を描く画家として有名ですが、なぜ古民家を描き続けたのでしょうか。

河内 若いころは、さまざまな絵を描いていました。戦前はヨーロッパへ留学し、有名画家の絵を模写したりしています。向井は昭和20年に新潟を旅し、古民家を初めて描きました。その時「この古民家のある風景は、将来無くなってしまうかもしれない」という危機感を覚え、古民家のある風景が生涯のテーマになったようです。

以来、向井は国内を広く旅して、古民家を描き続けました。現在残っている油彩画は1,000点を超えます。けれども、昭和36年にアトリエが全焼し、昭和8年から昭和36年にかけて描いた30年分の作品が、ほとんど焼失するという不幸に遭いました。かろうじて持ち出されたスケッチは、焼け焦げた跡が残っています。

―古民家の前はどんな絵を描いていたのですか。

河内 戦時中は従軍画家でした。従軍画家とは、戦地に赴いてその様子を描く画家です。当時は描写の巧みさが評価されたそうですが、戦後になると戦争画はタブー視され、しばらく世に出ることはありませんでした。そうした喪失感もあったのでしょうか、古民家を描き続ける背景には、平和を求める気持ちも色濃いように思います。

―向井潤吉の絵は、どのような評価を得ているのでしょうか。

河内 古民家のみ描くことに関して、一部には批判もありました。しかし、彼の描く風景は、すでに失われてしまった風景、無くなる可能性のある風景という意味で、貴重な資



向井潤吉『マタギの家』[秋田県北秋田郡阿仁町根子] 昭和38年(1963)
世田谷美術館分館・向井潤吉アトリエ蔵

料であり記録という評価も高かったようです。向井自身も、古民家の風景を描き残していくことが、自分の画家としての使命と感じていました。

―古民家は確かにすばらしい文化遺産ですね。

河内 向井潤吉の絵は写実的であり、まるで写真をみているようだ、という人もいます。現地で制作しているのですが、実際に見ているまを描いているわけではありません。描く風景が、絵として美しい情景になるように工夫もされています。例えば、実際には電線があるのに描かなかったり、アスファルトには草を茂らせ土の道路にしたり、といった具合です。

―作品をどのように鑑賞したらよいのでしょうか。

河内 今回の展覧会は、古民家の作品を展示すると同時に、日本の四季のうつろいも感じてもらえるように構成しています。また、向井は作品を制作しているときに起こった出来事や感じたことなどを、エッセイのように書き残しており、その文章も一緒に展示します。作品とエッセイを一緒に楽しんで、作品に寄せる作者の思いを感じてください。

古いものが見直され始めている現代だからこそ、今回の展覧会のような展示は意義があるのではないかと考えています。本展を通じて、自然とともにあった暮らしを感じ取っていただければ、と思います。

佐野美術館賛助会
ミュージッククラブ会報



林家ぼたん



イメージ



平成21年度
館蔵品特別鑑賞講座
～万華鏡編～



芦の湖カントリークラブ

ミュージック交歓

NUMBER

7

2011.3

佐野美術館と皆さまをつなぐ

ミュージッククラブ 平成23年度 イベント情報

会員のつどい

新年度の総会として、22年度の決算報告と新年度の事業発表をさせていただきます。落語や懇親会などの余興もごさいます。落語家の林家ぼたんさんは、テレビ番組「笑点」のアシスタントで知られ、浜松市生まれ、平成17年に「ニッ目」昇進した注目の人です。

日 時：平成23年4月29日(金・祝)
15:00～18:00
会 場：佐野美術館講堂
定 員：50名(要申込・先着順)
参加費：1,500円(お食事付き)
出演者：林家ぼたん(落語家)

歌舞伎鑑賞日帰りバス旅行

東京都内の美術館を訪れた後、ホテルでランチ。歌舞伎は、国立劇場で「義経千本桜」(渡海屋の場、大物浦の場)を鑑賞します。出演は中村魁春、尾上松祿ほか。

日 時：平成23年7月6日(水)
定 員：47名(要申込・先着順)
参加費：会 員 9,000円
非会員 13,000円
★ご予約は5月下旬から承ります。

館蔵品特別鑑賞講座～万華鏡編～

普段あまり展示されない収蔵品を、実際に触れながら鑑賞いただけます。今回の「万華鏡編」は21年度に続いて2回目の開催。陶芸家、辻輝子先生の幻想的な万華鏡の世界をお楽しみいただけます。夏休みにお子さまやお孫さまと一緒にぜひご参加ください。

日 時：平成23年7月～8月のいずれか1日
会 場：佐野美術館隆泉苑
定 員：15名
(お子さまの参加可・要申込・先着順)
参加費：大人 1,000円
子供 500円
講 師：坪井則子
(佐野美術館学芸グループ長)

第6回ミュージッククラブゴルフ大会

佐野美術館創業者、佐野隆一翁ゆかりの芦の湖カントリークラブで開催する会員親睦ゴルフ大会。雄大な富士を眼前にラウンドをお楽しみください。参加者には全員、美術館ならではの景品をご用意しております。

日 時：平成23年9月5日(月)
定 員：32名(要申込・先着順)
参加費：会 員 3,000円
非会員 5,000円
プレー代：9,000円(カートフィー・税込)

新規入会者 (敬称略、50音順) 平成22年9月1日～平成23年1月31日まで

〈ゴールド会員〉 高原敏廣

〈正会員〉 池谷洋之、小野寺美佐子、古山裕市、渋谷善平、日本通運(株)沼津支店 南雲勝正
微助人 野口繁明、山下ふみ子

佐野美術館賛助会ミュージッククラブ会報『ミュージック交歓』 2011年3月号(第7号)

発行日:2011年3月1日 編集・発行:佐野美術館賛助会ミュージッククラブ

住所:〒411-0838静岡県三島市中田町1-43 佐野美術館内 TEL:055-975-7278/FAX:055-973-1790

ホームページ:http://www.sanobi.or.jp メール:mc@sanobi.or.jp



横田年昭

十三夜の宴

月を愛でながら音楽を聴く、演奏会です。今年は笛奏者の横田年昭さんを招いての開催となりました。横田さんは“日本の心を奏でる横笛奏者”として知られています。現在は伊豆稲取に工房をかまえ、国内外で演奏活動をしています。

日時：平成23年10月9日(日)
17:00～20:00
会場：佐野美術館 隆泉苑庭園
定員：100名(要申込・先着順)
参加費：会員 3,000円
非会員 4,000円
出演者：横田年昭(笛奏者)
★ご予約は8月下旬から承ります。

美術鑑賞日帰りバス旅行(仮称)

平成23年度から始まった新規イベントです。大型企画展や主要美術館などを中心に、都内の美術館巡りを予定しております。(詳細未定)



伊豆箱根バス

館蔵品特別鑑賞講座～日本刀編～

佐野美術館の主要コレクションである日本刀を、渡邊妙子館長の解説とともにご覧いただけます。刀剣鑑賞の基礎、見方、そして心を学びます。実際にお手に取って、鞘や鐔の緻密な装飾や美しい刃文をご堪能ください。会員のお連れ様やご紹介者様もお申込みいただけます。

日時：平成23年12月～平成24年1月のいずれか1日
会場：佐野美術館隆泉苑
定員：15名(要申込・先着順)
参加費：1,000円
講師：渡邊妙子(佐野美術館館長)

★上記イベントは内容等変更する場合がございます。詳細が確定次第、随時チラシにてご案内いたします。



平成22年度館蔵品特別鑑賞講座～日本刀編～

muse 招待席



(左)一輪挿し 840円(税込)
(右)つば型ペンダント 600円(税込)



富士山型カードスタンド 500円(税込)

鈴木さんの作品はミュージアムショップにて販売しております。人気商品です！ミュージッククラブ会員様はショップ商品一割引！ぜひお立ち寄りください。

佐野美術館との長いお付き合い

佐野美術館友の会陶芸部 鈴木央子



鈴木央子さん、研二さん夫妻

私が主人と共に佐野美術館友の会の陶芸部に入会したのは、昭和の終わりごろでした。当時の会員の中では比較的若かったためでしょうか、友の会の活動に運営委員として参加させていただきました。その中で、各部の方との交流が生まれ、美術館の方々とも自然に親しくなっていきました。その後、主人がミュージッククラブ会員となり、私は家族会員としていつも訪れ佐野美術館を楽しんでいます。

このたび「ミュージック交歓」に掲載する原稿をと依頼されました。そこで振り返ってみますと、佐野美術館とのお付き合いは20年以上という長い年月になります。所属している陶芸部でも先輩は数えるほどしかおらず、私自身が古手になってしまいました。私の半生は、美術館と共にあると言えそうです。

これまでで思い出深いのは、平成16年に発足した「さのび子どもくらぶ」の活動です。コーディネーターとして企画段階から参画し、陶芸コースに参加する子供たちのお世話をする指導員となりました。自分にそのような役割ができるのか、不安を感じながらのスタートでしたが、子供たちの真剣に取り組む姿勢に背中を押され、今日まで続けることができました。

そのときの経験が、今の私にとってはかけがえのないものになっています。

あのころの子供たちは、今は高校生になっているでしょうか。その子供たちが数年後に、自分の子供を連れて美術館に気軽に立ち寄ってくれたらいいなと思います。

私は個人的には、五竜陶房として美術館の売店にオリジナル作品を置いていただいております。美術館の企画に沿って、刀のつば形ペンダントや、さや形掛け花瓶、水都三島の象徴であるミシマバイカモや湧水を表現した作品などを作っています。

今年、佐野美術館は県内で初めての公益財団法人美術館の認定を受けますが、私たちも美術館の公益活動の一助となるべく活動していきたいと思っています。

なお私たち陶芸部は毎月第二日曜日に楽しく作陶活動をしていますので、お気軽にお立ち寄りください。新入部員募集中です。

ミュージッククラブ 会員特典について

平成22年度より「音声ガイドの無料貸出」が特典として新たに加わりました。「音声ガイド」とは、イヤホンの付いた携帯用ステレオで、展示作品の解説や展覧会の見どころを“耳”で楽しめるサービスです。主な出品作品の詳しい解説を聴きながら鑑賞できるので、美術品の魅力をより深く感じていただけます。貸出料金が通常300円のところ、ミュージッククラブ会員様は無料で何度でもお聴きいただけます。ご来館の際はぜひご利用ください。



平成22年度活動報告

第5回ミュージッククラブゴルフ大会

平成22年9月14日(月)



優勝者 植松英生さん

青空の下、皆さん気持ちよくプレーをしました。優勝者は植松英生さん。毎回上位入賞者です。おめでとうございます。

植松さん談
天候とメンバーに恵まれて優勝させていただきました。

十三夜の宴～心揺さぶる音色に触れて～

平成22年10月20日(水)



あいにくの雨模様でしたが、サクソ奏者、中村健佐さんの雰囲気のある力強い音色に酔いしれました。演奏後はビュッフェ形式の温かいお食事を召し上がりながら、歓談しました。

館蔵品特別鑑賞講座～能面・能装束編～

平成22年12月4日(土)



「山口安次郎作 能装束遺作展」に合わせ、佐野美術館所蔵の能面と能装束を隆泉苑で鑑賞しました。学芸員の解説を聞きながら、普段は見ることができない細かな部分まで、皆さま興味深く鑑賞されていました。

😊 ミュージッククラブ 会員募集 😊

新年度のミュージッククラブ会員を募集しています。楽しい催しを企画して、皆さまをお待ちしております。佐野美術館ミュージッククラブ事務局までお問合せください。